

BAT Study and Conservation REPORT

コウモリ通信 Vol.4 No.1 1996.5

Chiroptera



各地からの報告

那須のコウモリ

安井 さち子

戸隠森林植物園コウモリ調査報告

三笠 暁子

熱帯雨林に到着して30分。最初に出会った哺乳類がこいつらだった

神谷 有二

ヤマコウモリの死体をひろった

落合 けいこ

バードバンディング中に混獲されたコウモリ2種

作山 宗樹

コウモリと夏のビール

中田 利夫

なぞの声 続報

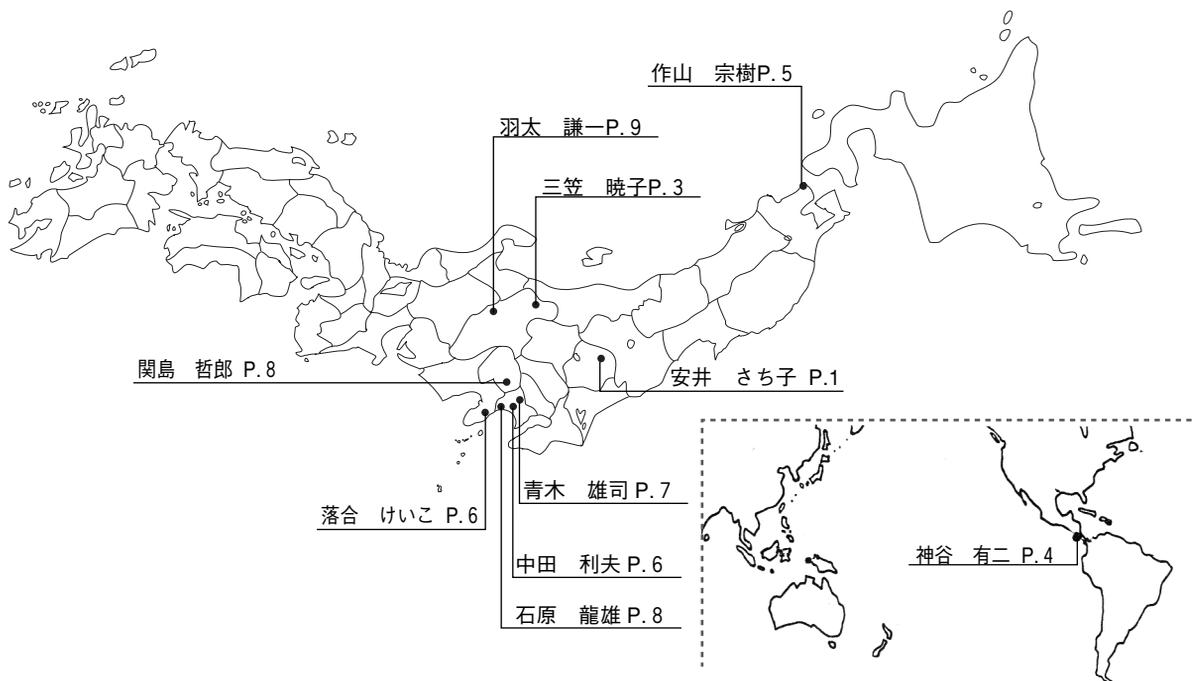
青木 雄司・関島哲郎・石原 龍雄

羽太 謙一・編集部

インフォメーション



もくじ



各地からの報告

那須のコウモリ

安井 さち子

現在、栃木県立博物館の自然総合調査と栃木県の自然環境調査の一環として、栃木県那須地方のコウモリ類の分布調査を行っています。昨年からはじめ、2年目に突入しました。

那須というと、茶臼岳などの火山か高原を思い浮かべる方が多いと思いますが、私たち（コウモリの会の今関、佐藤氏ら）が主に調査しているのは、いわゆる裏那須と呼ばれる、西方の自然の多く残っている地域です。那須には昔につくられたずい道（農業用水を通すためのトンネル）が多くあるの



写真1：モモジロコウモリ (1995. 5. 8)

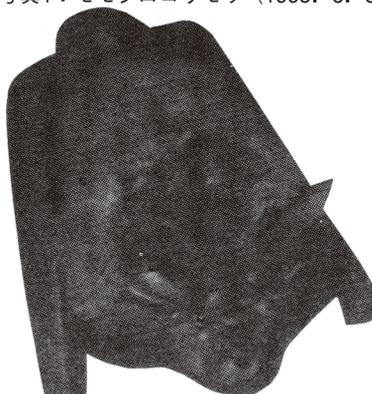


写真2：キクガシラコウモリ (1995. 9. 23)

で、そこでのコウモリ捜しと、沢や森林でのかすみ網による捕獲を行っています。

【バットディテクタによる下見】

かすみ網で調査をする前に、まず始めにしたことは夜の林道や沢ぞい歩きです。すると、バットディテクタに声が入ったり、ライトをかすめてシルエットが見えたりして、コウモリがいることがわかります。何度か通ると、林道で2mくらいの高さをまっすぐ飛んでいくコウモリがいるとか、沢の水面すれすれを飛ぶコウモリもいるとかがわかってきて、是が非でも種類が知りたくなるのです。

【いろんな事がわかってきた】

これまでいくつかのコウモリに出会うことができたので、紹介したいと思います。沢で（川の上で）捕獲されたのは今のところモモジロコウモリだけです。なだらかな流れの所にはだいたい見られるようです。沢沿いの林の林道ではコテングコウモリが捕まりました。こちらの林道はキャンプ客や釣り人に結構利用されていて夜中でも車がたまに通るのですが、この時も車が来たためあわてて網を道のはじによせたところ、網に毛玉のようなものがなんかついている！と思ったらコテングコウモリでした。網の動きについていけなかったのか、あるいは車のライトに目が眩んだのでしょうか。また、別の沢沿いの林道で、ある時コウモリがたくさんかかったのですが、検索表をたどるとこれがどうやらヒメホオヒゲコウモリらしいのです。バットディテクタの音からきくとモモジロコウモリだろうと思っていたので私の予想は思いっきり外れでした。来年はもうちょっと注意深く観察してみようと思います。

ヒメホオヒゲコウモリ

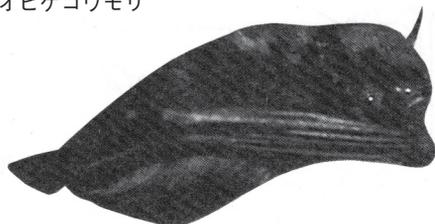


写真3：モモジロコウモリが飛ぶ沢 (1995. 9. 22)



写真4：ヒメホオヒゲコウモリが飛ぶ林道 (1995. 9. 22)

【これからの調査の課題】

この他、なぜか明け方にだけ気付く樹冠上をひらひらと飛ぶコウモリ（アブラコウモリに似ている）や、秋になると聞こえるなぞの声（コウモリ通信 Vol.3 No.1 1995.6 三笠氏文参照）など、まだまだ正体のわからないコウモリがいます。どうやって調べたらいいのかわからない、いいアイデアをお持ちの方はぜひ教えてください。かすみ網を使っただけの分布調査は何にも捕まらない日が多いので（経験不足もありますが）、期間の限られる県の調査などではわずかしら調べないうちに終わってしまうのが悩みです。捕獲できるコウモリの個体数はそう多くないけれど、種類を確認すると同時に、松村先生の提案（コウモリ通信Vol.1, No.3-4, 1993.12）のようにバットディテクタで声も録音するようにしています。でも使えそうなのはまだない。私もバットディテクタで簡単に種類がわかるといいなと思っているひとりです。

（やすい・さちこ 栃木県立博物館自然課）

戸隠森林植物園コウモリ調査報告

三笠 暁子

戸隠森林植物園内のコウモリ類調査（捕獲許可No.190）

1995年9月7～8日（7日は下見のみ）

●参加者 コウモリの会メンバーなど以下7名
前田、三笠、水野、赤沢、橋本、峰岸、藤原

●調査地 長野県上水内郡戸隠村森林植物園
広さ71.41ヘクタール
標高1200-1250m
気温-8.3℃～29.0℃ 平均10.8℃
年間降雨量1461mm

【研究の目的と方法】

1993年7月と1994年8月、長野県上水内郡戸隠村森林植物園において、バットディテクタ（以下BDに

略します）によるコウモリ類の生息調査を行った。その結果、3～4箇所でコウモリの飛翔を確認できたが、捕獲をしなかったため、種の同定にはいたらなかった。

その後、森林植物園およびその周辺における哺乳類相について文献を調べてみたところ、コウモリ類についてのみ、ほとんど報告例がないことがわかった。

戸隠森林植物園とその周辺は、ほぼ原生林に近い自然林で、ブナ・ミズナラの大木をはじめ、遷移段階の異なるいろいろな林が存在する貴重な場所である。このような場所のコウモリ相を調べることは、コウモリ相とその生息環境についてを考察する上で大変重要と思われる。

今回の調査は、前田喜四雄氏（奈良教育大学）にご協力いただき、かすみ網で捕獲した後、前田氏立ちあいの下に正確な同定を行い、外部計測や繁殖状態、捕獲時の状況などを記録したのち再び放した。

【結果】

1995年9月7日 晴れ（月夜）気温14℃

20：09～22：40 BDによる下見調査

21：23 奥社参道で45-70kHz プツプツバット（BDでプツプツという音が確認できるコウモリのこと。以下同）を確認

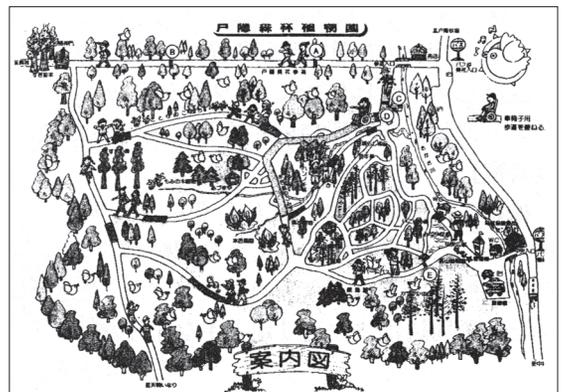
21：39 随神門付近で45kHz プツプツバットを確認

22：20 みどりが池 水面上を40-60kHzで飛ぶプツプツバットを確認

22：35 越水ロッジ横の街灯上空で20kHz以下のピュッピバットを確認

1993年7月に行った調査の時より音の確認数が非常に少なかった。時期の違いも影響していると思われる。なお、奥社参道とみどりが池水面は2年前に、ほぼ同じ場所で同じような音が確認されている。

越水ロッジ横の街灯では1994年8月、羽太氏（ナチュラリストクラブ）が夜8時半頃、街灯の下（高さ約3m）を25kHzの音を出しながら飛ぶコウモリを目視している。大きさはヤマコウモリより小さめだっ



戸隠村森林植物園案内図

たということで、飛び方と大きさからいってヤマコウモリ以外の「25kHzコウモリ」ではないかと思われるが、今回は残念ながら確認できなかった。

1995年9月8日 晴れのち曇り（満月、のち霧発生） 気温10℃ 日没時刻17時58分

13：30-15：30 調査地下見

16：00-18：30 かすみ網を5箇所¹に設置

かすみ網設置場所（p.3地図参照）

A 奥社参道

B //

C 参道入口から入口広場までの道

D 小鳥の小道入口

E みどりが池西南の探鳥路入口

18：50 B地点でヒメホオヒゲ♀ygを捕獲 地上高約3m

19：10 A地点でヒメホオヒゲ♀adを捕獲 地上高約1m

19：10 C地点で網にかかるが逃げられる 地上高約2m

19：30 D地点でキクガシラコウモリ♀adを捕獲 地上高約1m

20：00 B地点でヒメホオヒゲ♀adを確認 地上高約1.5m

21：40 D地点で網を回収作業中コテングコウモリ♂ad捕獲 地上高約1.5m

以上ヒメホオヒゲ3頭、キクガシラ1頭、コテング1頭の計3種5頭を確認した。各個体は前腕長と下腿長を計測し、前田氏に同定をしてもらった後、放獣した。

【考察】

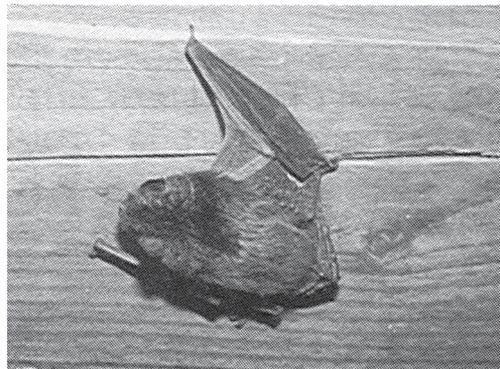
捕獲された3種のコウモリのうち、キクガシラコウモリはほぼ一年中洞窟にすむ（例外もある）ため、近くにコウモリのすめるような洞窟があるのではないかと思われる。また、コテングコウモリはほとんどが樹洞棲である。今回洞窟棲コウモリと樹洞棲コウモリの両方が捕獲されたことより、戸隠森林植物園とその周辺はコウモリ類の主なすみかである洞窟と樹洞のどちらも備えた環境であると考えられる。

また、C地点で逃げられたコウモリは水野氏（コウモリの会）によるとヒメホオヒゲより大きく、キクガシラよりは小さいコウモリだったということで、捕獲された3種以外の種である可能性もある。また、1994年に羽太氏が観察した25kHzの中型コウモリも未確認のまま終わった。

このようなことから、今後の調査ではさらに多くの種が見つかる可能性も考えられる。

今回最も多く捕獲されたヒメホオヒゲコウモリは、前田氏によると中部山岳地帯の原生林の残る森林で、よく見られる種類であるという。ヒメホオヒゲは3個体とも参道にかけたかすみ網の地上約1~3mのところにかかった。1993年7月に観察した参道の地上約2mのところを同じ場所を直線的に行ったり来たりして採餌していたコウモリとは、バットディテクタの音も一致しており、おそらくヒメホオヒゲコウモリではないかと思われる。

（みかさ・あきこ ナチュラリストクラブ）



捕獲されたヒメホオヒゲコウモリ

熱帯雨林に到着して15分。最初に出会った哺乳類がこいつらだった

神谷 有二

特別コウモリに強い興味があったわけではないのだけど、北へ南へ東へ西へ、森やら、動物やらを見にいくと、いろんな場所でコウモリに出会っている。このコウモリもそんな中の1種類。

コスタリカに熱帯雨林を見にいったときのこと。セスナをチャーターしてまで行った国立公園は結構スゴイところだった。その国立公園の名はコルコバド国立公園。自然の多く残るコスタリカのなかでも、もっとも多様性に富んだ熱帯雨林が残っているところのひとつだ。面積は約55,000ヘクタール。太平洋に面しており、低地性のいわゆる熱帯雨林から山地性の雲霧林まで状態よく保護されている。

とにかく、一番近い村からセスナに乗ること約20分。熱帯雨林のど真ん中にぼつんと建つレンジャーステーションに着いた。早速、レンジャーと挨拶をかわし、一通り国立公園での注意事項などの説明を受けた（スペイン語だったのでほとんどわかっていなかったが…）。それから寝る場所に案内されて驚いた。なんとそこは“壁のない天井裏”。つまり屋根はあるんだけど壁はなくて、寝床から熱帯雨林丸見

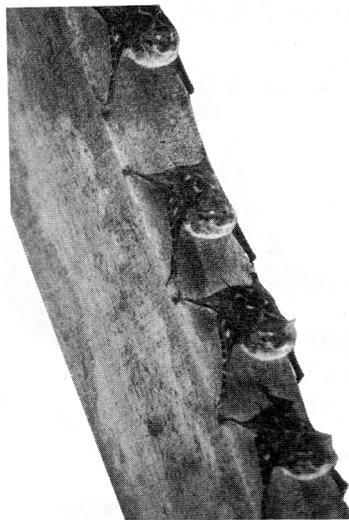
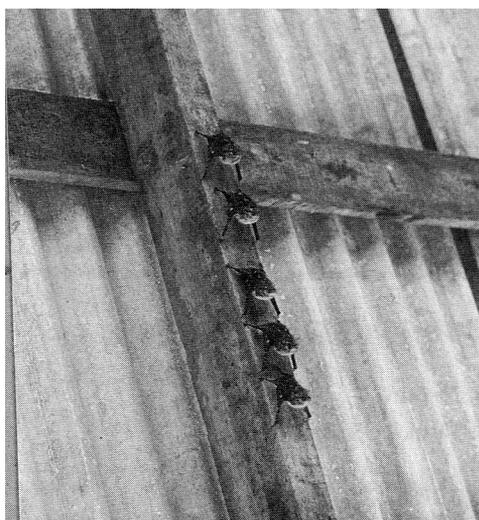
えという、なんかとんでもないところだった。もちろん、ちゃんとした部屋を期待していたわけではないのだけど…。

今にして思うと本当に良いところだったのだが、その時はこれからはじまる一週間の「ひとりで熱帯雨林三昧」という計画に期待3割、不安7割で、「ウン、こんなトコで1週間過ごすのか・・・」と一人用の蚊帳を天井から張りながら、途方に暮れていた。そんなとき、ふと見上げるとこのコウモリが仲良く7匹連なって、梁にへばりついていて、なんか毛がフサフサしていて、シマシマ模様のかわいいヤツだ。日本で見かけるようなコウモリとは違って、なんか根拠もなく熱帯雨林っぽい。熱帯雨林に着いてほんの15分ぐらいでもう哺乳類に出会った僕は、「ヨシヨシ…、さすがは熱帯雨林！」などとほくそ笑みつつ、さっきまでの7割の不安が10割の期待にかわっていることに気がついた。

結局そのコウモリ達は、僕が滞在していた1週間ずっと梁にへばりついていて、ある日は一本の梁に7匹連なって、またある日はこっちに3匹あっちに4匹と、並び方はさまざま。そのレンジャーステーションは、毎晩夜8時まで明かりがついており、彼らはそこに集まってきた虫を食べていた。電気が消えると、たぶんまわりの熱帯雨林にエサを探しに行くのだろう。（かみや・ゆうじ 山と溪谷社出版部）

神谷さんが観察したコウモリの種類を奈良教育大学の前田喜四雄氏に問い合わせたところ、小コウモリ亜目サシオコウモリ科 (Emballonuridae) のヒメシマサシオコウモリ (*Saccopteryx leptura*、英名; Two-lined bat) であることがわかりました。

サシオコウモリ科は、英名がSheath-Tailed Bat (さや状のしっぽをもったコウモリ) で、尾膜を自由に伸び縮みさせることができるのが特徴です。食虫性で、キクガシラコウモリのような鼻葉はありません。ヒメシマサシオコウモリ属は、メキシコ南部からペルー、ブラジルにかけて分布し、下の写真のように柱や幹に各自が一定の間隔をもって休息します。体の模様は保護色と考えられているようです。（編集部）



コスタリカで出会った
ヒメシマサシオコウモリ

青森県でバードバンディング中に混獲されたコウモリ2種

作山 宗樹

コウモリ通信 (VOL.3, No.1) に掲載された橋本氏の「バードバンディングにおけるコウモリの混獲」を読みました。バードバンディング中に混獲されるコウモリのデータが活かされるためにも、コウモリ研究者の方々との交流の必要を強く感じました。私も個人的な調査として4年前より青森と岩手で鳥類の標識調査を行っています。コウモリに関してはほぼ素人ですが、今まで2回、バードバンディング中にコウモリを捕まえたことがあります。ささやかですが、データは以下の通りです。

1. コキクガシラコウモリ (写真)

年月日：1993年9月11日（時間はおよそ22：00前後）

場所：青森県東津軽郡三厩村竜飛岬

環境：風によって矮化したミズナラ林の林縁（地上高約1m）

使用網：30メッシュのカスミ網

2. キクガシラコウモリ

年月日：1995年8月15日

（時間帯はおよそ18：00～19：00）

場所：青森県西津軽郡深浦町椿山

環境：海岸に近い水田に接するクロマツ並木と低木林の境（地上高約70～80cm）

使用網：36メッシュのカスミ網 どちらも

写真撮影した後、すぐに放しました。測定は行っ

ていません。キクガシラは口の届く範囲の網がかなり咬みきれましたが、コキクガシラでは顎の力が弱いためか網を咬みきることができませんでした。この場をお借りして、現場でコキクガシラコウモリの写真を撮影していただいた青森県十和田市在住の石澤友雄さんと、写真を通じて同定して頂きました向山満先生、キクガシラコウモリについてご教示いただきました弘前市在住の笹森聡さんに謝意を申し上げます。
（さくやま・むねき 株式会社ネクサス、岩手県自然保護協会）



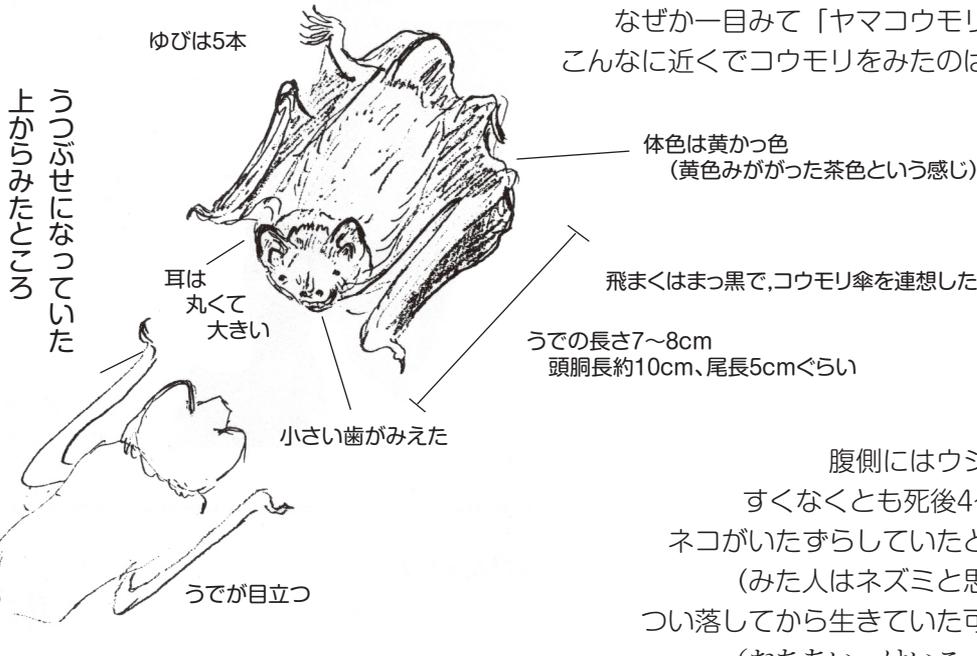
コキクガシラコウモリ(石澤友雄氏撮影)

ヤマコウモリの死体スケッチ

落合 けいこ

1995年11月5日、小田原市内の畑でヤマコウモリの死体を見つけたのでスケッチした。

尾はまきこんでしまっている



なぜか一目みて「ヤマコウモリ」と感じた。こんなに近くでコウモリをみたのは初めてだが。

腹側にはウジが入っており
すくなくとも死後4～5日の感じ…
ネコがいたずらしていたとの情報もあり
（みた人はネズミと思っらしい）
つい落してから生きていた可能性もある。
（おちあい・けいこ やまね工房）

コウモリと夏のビール

中田 利夫

1995年8月。哺乳類のフィールドワーカー（本業）にとっては、学生並みの長い夏休みがやってくる。年間で最も稼ぎの悪い季節だ。ところがこの夏は様子が違い、T県から何と「コウモリ調査」をやってくれという依頼があった。これぞ趣味と実益が一体となったオイシイ仕事である。よるこんで出向いたT県M市南部の調査エリアは、直線で約15km、その中に5km四方のメッシュが5カ所というものだった。ロケハンの結果用水池と防空壕、使用されていない素掘りの隧道が調査地域のあちこちに点在している

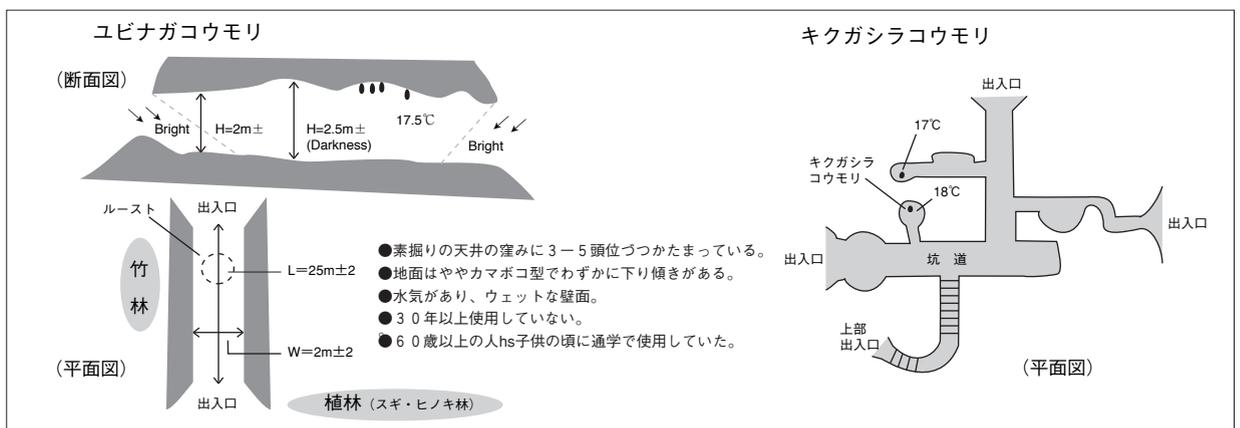
ことが判り、青ざめてしまった。どうみても「コウモリ天国」なのだ。短い調査期間内で仕事をこなすには、なんとか的を絞らなければならない。

こうなると昼間は洞窟探検で棲息していることを確認し、夜は捕虫網と録音に明け暮れる毎日が続く。当然眠る時間は短くなり、日に日に人間性は失われていくことになる。こうして悪戦苦闘の末に得られた調査結果は、スズメの涙のようなギャラとなり、砂漠にしみ込む水の如くこの夏のビールに変わっていった。

【調査中の出現種】

*バットディテクタ（以下BD）は18時～23時に使用。19時～21時30分頃がピークだった。）

- キクガシラコウモリ・・・防空壕の中。BDは75kHzがピーク。
- ユビナガコウモリ・・・素掘りの隧道内に少数の群れがいた。BDは55kHz。
- モモジロコウモリ・・・外灯が灯る用水池で多数。BDは45～48kHz。森に囲まれた小さな用水池から、開けた場所の広い用水池まで確認。
- アブラコウモリ・・・市街地に近い用水池に多数。BDには最初38kHz位で入り始め、その後飛翔が盛んになる頃には45～48kHz。



ユビナガコウモリとキクガシラコウモリの棲息環境



なぞの声 続報

コウモリ通信Vol.1,No.3に掲載された「秋の夜に聞いたなぞの声」について、各地から情報がよせられたので紹介します。（編集部）

北アルプス、上高地、津久井町から

青木 雄司

私が、謎の声についての話を聞いたのは、平塚市博物館の浜口先生からでした。話によると「謎の声は、夏は高い山にいて、寒くなると低地に降りるのでは。」ということと、「謎の声はオヒキコウモリではないか」ということでした。（平塚市博物館には1984年1月に小田原市で拾得されたオヒキコウモリの標本があります。）

夜空に「チツチツ・・・・」と規則的に聞こえる謎の声を初めて聞いたのは、1994年8月末に北アルプス穂高山荘横（標高3000m）にテントを張ったときです。この夜、私は高熱をだし意識朦朧となっていました。夜中に上空を飛び回る謎の声をはっきりと聞き取ることができました。ここに雪のある1995年10月30日に山小屋泊で登った時は、夜間に外に出てみましたが、確認はできませんでした。

1995年10月31日、上高地の徳沢（標高1600m、雪なし）にテントで泊まった時は小雨にもかかわらず夜間に謎の声が飛び回っているのが聞き取れました。ここに雪の多い1995年12月30日にテントで泊まりましたがフクロウの鳴き声しか聞こえませんでした。

1995年11月19日には、神奈川県津久井町・清川村（標高約300m）の集落で、謎の声を聞きました。神奈川県内では、夏期に丹沢山塊（最高標高約1600m）を含めいろいろと歩きましたが、謎の声は聞き

たことはありません。

先ほど浜口先生の話をつまえて、夏は高山にいて、雪が高山に降り始めると麓に降りて、さらにそこに雪が積もると神奈川県のような平地近くまで降りてくるのでは、と勝手な推測をしています。

夏にどのような高山で謎の声が聞こえるのか興味のあるところです。ちなみに、1995年8月に北海道の大雪山を縦走した時には、かなり気をつけていたのですが確認はできませんでした。

今、挑戦しているのは謎の声を録音することです。なぜか録音機を持って行くと声が聞けません。周りからは日頃の行いが悪いからだとの声も聞こえてきます。まずは、行いを正すことから始めなければならぬようです。いずれにしても、どこで聞こえるのかを確認していきたいと思っています。

(あおき・ゆうじ 神奈川県平塚市)

オヒキコウモリについて

関島 哲郎

以前、コウモリ通信に不思議なコウモリのこと載っていましたが、そのコウモリは、オヒキコウモリだと思われます。1994年4月からしばらく、山梨県都留市にある都留文化大学でオヒキコウモリ



の観察を行いました。日が沈んでしばらくすると、オヒキコウモリの声が聞こえてきます。主な観察場所は、大学の駐車場で、その他に市内の球場で何頭かオヒキコウモリを確認しています。大学の駐車場には、2~3頭のコウモリがいると思われます。

このコウモリの特徴は、かなりのスピードで飛ぶこと、可聴音を出していること、他のコウモリと比較すると直線的な飛び方をすること、飛んでいる高度が高いことなどが観察していて気付いたことです。普通は高いところを飛んでいるのですが、この観察中には何度か人間の身長ぐらいまで降りてくることがありました。

この観察中に今泉吉晴先生がコウモリ声を収録しています。またコウモリの姿も撮影しています。写真では、コウモリの翼の形状と頭部の形が見てとれます。翼は細長く、頭部はオヒキコウモリの耳の形状の関係で大きく前方に張り出しているように見えます。詳しいことはまだ解りませんが、都留市では4~10月の間はオヒキコウモリ声を聞くことができます。

(せきじま・てつお 山梨県都留市)



1985年10月28日、福岡市内の高校のトイレのゴミ箱からみつかったオヒキコウモリ雌の亜成獣 (柳川久氏撮影)

箱根から

石原 龍雄

1995年10月30日20時頃、森のふれあい館上空を飛ぶオヒキコウモリと思しきディスプレイソング?を聞きました。チン・チン・チン・・・チン・チン・チン・・・チン・チン・チン・チン・・・と同じ旋律を繰り返しており、口笛でまねると、上空を旋回しつづけていました。バットディテクタでは、20kHzより下(18位?)でキャッチできました。

この声は10年ほど前にも湖尻水門で2~3回聞きました。(虫の鳴かない季節だったので、鳥屋さんに聞いてみたけれどわからずじまいでした。)騒音がひどかったのですが、12月13日に小田原でも似た声がありました。

(いしはら・たつお 箱根森のふれあい館)

1995年9月23日、乗鞍高原国民休暇村の駐車場（標高約1600m）と、乗鞍自然保護センターの駐車場で、ツツツツツツ・ツツツツツツ・・・と、はっきりしたリズムをもったコウモリの声らしき、直に耳に聞こえる声を聞きましたが、姿を見ることはできませんでした。

（はぶと・けんいち ナチュラリストクラブ）

なぞの声の正体にせまる

編集部

1994年10月15-16日、栃木県那須岳の麓で不思議な声を聞きました。それは夜、空から聞こえてくる高い音で「チッチ、チッチ、チッチチ…」という規則的なリズムで何時間も鳴き続けているのです。

この話を本紙（Vol.3, No.1）に掲載したところ、何人かの方から「私も聞いたことがある」という情報をもらいました。また、山梨県の都留文科大学の今泉吉晴氏は以前から都留の上空を「チッチチチ…」という感じの可聴音で鳴くコウモリが飛んでいて、それはオヒキコウモリではないか、という話をされていました。私が那須での話をすると、「それはオヒキコウモリでしょう」と先生はかなりの自信ありげ…。「4月は虫の関係か、低いところまで降りてくることがある。満月だと姿を見ることができるとかも」ということだったので、1996年4月6日、先生にお願いして観察場所に案内してもらいました。

【声がよく聞こえる場所はみんな似ている】

集まったコウモリ好き15人。今泉先生にいろいろと話を伺った後、夜7時頃から観察を始めました。先生がよく声を聞く場所はどれも環境が似ています。郊外の野球場で数カ所、ナイターの光にくる虫を捕えるために訪れるようです。それから3-4階だての建物とその前に駐車場（街灯つき）という所が数カ所。車でまわったのですが、先生は車から降りると耳をすますこともなく「あ、来てないな。次行きましょう」とすぐに音の有無を確認。「とても大きい音なので、いればすぐにわかる」のだそうです。その日はちょっと気温が低かったせいか、なかなか“声”はあられられません。

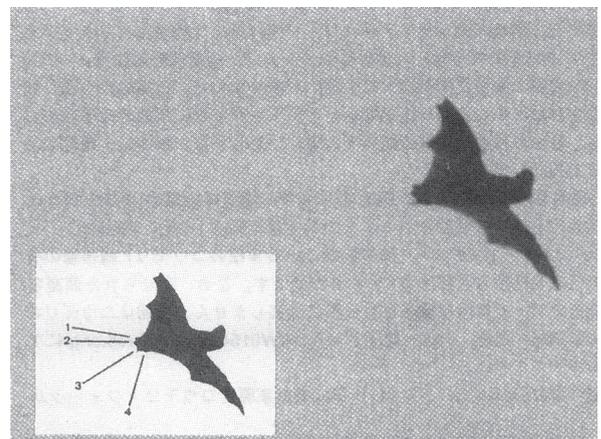
【ついに声の主あらわる】

何か所かまわった後、南都留合同支庁の建物前の駐車場で、ついに声に遭遇しました。先生の言う通り、その声はかなり大きく遠くから近づいてくるのがよくわかります。6本直列の懐中電灯で照らすうち、目のいい人がついに上空を飛ぶコウモリを見つけました。かなり大きいコウモリで、上空をスーッと直線的に飛んでいきます。採餌もしているようで、「チチチチ・・・」というバズも聞き取ることができました。

【オヒキコウモリか？】

那須での声を一緒に聞いた今関、安井、水野、三笠の4人とも、音質はそっくりだ、と意見が一致しました。また、その時集まった中に、自分が以前聞いた音と同じであろうという人が何人かいて、みんなが各地で聞いている声は同じものではないかという推測ができました。

さて、コウモリであることはほとんど間違いのないのですが、何の種か？というのが問題です。大型のコウモリであることは確かです。翼はかなり細長く、エコーレーションの音が20kHz以下と低い、ということでヨーロッパの文献を調べてみると、日本ではまだ10数頭しか見つかっていないオヒキコウモリであることが濃厚になってきます。都留文科大学では数年前、学校内でオヒキコウモリが見つかり、保護されたこともあります。オヒキコウモリは日本ではまだよく調べられていないのですが、ヨーロッパに日本の種と同じもの（シ



ヨーロッパオヒキコウモリ (*Tadarida teniotis*)の飛翔写真。日本にいるオヒキコウモリ (*T. insignis*)のシノニム(同種)。飛翔中はしっぽの飛び出し部分は目立たないが、耳の大きさが目立つ。Myotis 31(1993)より引用



T. teniotisのオスのソリタリー（単独者）がねぐらにしているビル。同じくMyotis 31(1993)より

ノニム)がいて、いろいろと調べられています。それによると、*エコーロケーションパルスは12-14kHzでとても大きく、直接耳で聞こえる。*ねぐらは険しい山の中の小さい岩の裂け目にあり、夜になると高い上空を飛んで町の明りにハンティングにやってくる。とあり、今回の観察例と一致します。大きくて翼の細長いコウモリというヤマコウモリも考えられるのですが、ヤマコウモリは出巢時はうるさく可聴音を出すものの、採餌の際は25kHz位でエコーロケーションしていて、今回のようにはつきり耳に聞こえる音は出さない、というのがヤマコウモリを観察したことがある植木氏らの見解です。

【これからの課題】

今回の観察結果と今泉氏の話、関島氏の報告 (p.8)などをヨーロッパの報告書と比較してみると、このコウモリがオヒキコウモリである可能性は高いと思いました。

しかし、ひとつ重要なのは、このような低い声を出すコウモリは、はたしてオヒキコウモリだけなのか？ということです。エコーロケーション用のパルスだけでいえば、上記したヨーロッパの文献にもあるように15kHz以下と低いのはオヒキコウモリの特徴のようですが、social callなら、オヒキ以外の種でも低い周波数の声を出すことが報告されています。都留で聞いた声は明らかなエコーロケーションパルスでしたが、私達が那須で聞いた声には反復されるリズムがあり、social callの一種ではないか、と思うのです。そうするとオヒキ以外の、他の種である可能性もあります。

また、都留で聞いた声の主がオヒキコウモリであるとしたら、菅平では出産期にあたる夏にも声が聞こえるということで、今まで日本では繁殖していないのでは、と思われていたのがまたなぞが深まることとなります。高い所を飛ぶので、コウモリの調査方法である霞網にひっかからなかったことと、ねぐらが見つげにくい所にあることで、実はたくさんいるのに少ない、とされていたのかもしれない。ヨーロッパの文献にも、With the use of ultrasound detectors it become obvious that this species is much more common than expected.とありました。これからもなぞの声について、いろいろと調べて行きたいと思っています。

BAT INFORMATION

■西表島コウモリ調査・ボランティア募集

期間：1996年7月17-25日頃を予定。調査内容：バットディテクタによる生息調査と霞網調査。条件：現地までの交通費は自己負担、調査期間内の宿泊・食費は無料。希望者は前田喜四雄（〒630奈良市高畑町奈良教育大学TEL0742-27-9207、FAX0742-27-9142）まで。

■現在、環境庁のレッドデータブック改訂版の作業が進められています（1998年公表予定）。検討委員の一人である前田喜四雄氏よりコウモリの会の会員に情報提供のお願いがありました。日本のコウモリ種の生息状況をなるべく正確にレッドデータブックに反映させるためにも、会員の方々に情報の提供をお願いいたします。以下に、情報の項目を列記します。

1.種名 2.採集地(観察地)3.洞窟名(洞窟棲の場合)4.観察日(複数の場合は最新のものを)5.時期とおおよその個体数：春()・夏()繁殖期・秋()・冬()冬眠期- 6.同じ洞窟にいる多種のコウモリ7.報告書の有無(あれば題名と報告書名) 8.その他です。なお、寄せられた洞窟名などのデータは内部資料として一般に公表しません。情報はコウモリの会事務局へ郵便、FAX、電子メールにてお寄せください。

■今年の8月3(土)、4(日)日に乗鞍高原でコウモリ・フォーラムが

開催されます。内容などの詳細が決まり次第お知らせします。

■新刊案内

「北東アジア陸生哺乳類誌 朝鮮半島・中国東北篇」(西原悦男編著)

これまで北東アジア大陸の哺乳類に関する資料は非常に少なかった。本書は、朝鮮半島で記録された全ての陸生哺乳類をとりあげ、形態と分布、生息状況を解説し、確認された標本の所在を示した力作。図版や写真も豊富で、翼手目は29種収録されている。ご希望の方は、発行元の鳥海書房

、114ページ、定価2800円(税込み)。

■原稿募集

編集部ではコウモリに関する情報を随時受け付けておりますので、ぜひお寄せ下さい。原稿をくださった方はさきやかながら年会費1年分を無料にさせていただきます。

■入会案内

*申込方法 ハガキに住所、氏名、電話番号をお書きの上、事務局までお送り下さい。*年会費1000円。お振り込み先は、郵便振替口座：00270-4-12189口座名：コウモリの会。*連絡先

コウモリ通信 Vol.4 No.1 1996.5

(通巻第8号)

- シンボルマーク 村上 康成
- 編集 三笠 暁子・水野 昌彦

発行:コウモリの会

【編集後記】◆今回、オヒキコウモリについて海外の文献を調べた時、切実に日本の情報不足を感じました。コウモリの会もINTERNETに仲間入りしたいと思っています。◆今年も乗鞍高原でコウモリフォーラムがおこなわれます。企業からの助成金でコウモリ小屋の建設も始まり、乗鞍は今後コウモリ保護の拠点になりそうです。

©1996 Bat Study and Conservation Group of Japan